



長照寺だより

# わ げん あい ごと 和 顔 愛 語

浄土真宗本願寺派(西本願寺) 摂取山 長照寺 静岡県三島市徳倉1195-817 電話055-988-4242  
URL <http://cyoshoji.or.jp> E-mail: [info@cyoshoji.or.jp](mailto:info@cyoshoji.or.jp)

## 門信徒会親睦研修旅行(姫路・神戸)

平成25年10月21日～23日



神戸別院本堂



別格別院 本徳寺



姫路城

「仏法を聞いて、心の持ちようを改めようと思う人はいるけれども、  
信心を得ようと思う人はいない」

(蓮如上人御一代記聞書より)

# 門信徒会発足二十周年を振り返って



長照寺門徒推進員 斎藤 加代子

## 長照寺との出会い

私は、仏壇のある家で育ちました。その雰囲気は懐かしくなりお寺に行ってみたくて思っていました。そんな中、ボランティアの仲間から長照寺のことを聞きました。平成五年門信徒会に入り、直ぐ定例法座に参加して仏法の聴聞を始めました。したがって、私は門信徒会の発足と同時に歩んできたこととなります。定例法座では、最後に仏教讃歌の恩徳讃を歌うなどキリスト教会に似ているとビックリしました。またお寺の幼い二人のお子さんが正座して念仏する姿に接して暖かい空気を感じました。こうして毎月の定例法座に参加するようになりました。

## 門徒推進員仲間との出会い

寺院の教化活動として門徒推進員の養成を行う研修会に参加しないかとのご住職からの誘いに簡単に手をあげました。連続研修会を終え、平成十年に本山の中央教修会に参加しました。全国から集まった仲間と一緒にご帰敬式にものぞませて戴き、門徒推進員代表としてご

門主から直に法名を戴く榮譽に出逢うこともできました。長照寺との出会いが、こんな風になつたのです。そして、私の心の中に阿弥陀様の占める度合いが広がり、仏壇のある家庭にしたいとの想いが強まりました。私の父は仏師で仏壇店を営んでいましたので仏壇を入れることにしました。ご住職にお願いして我が家に阿弥陀様をお迎えしました。これで真に浄土真宗門徒になつたような気がします。

## 娘の死との出会い

他家に嫁いだあと、一歳の孫を残してお浄土へ往つていきました。自分の子供を亡くす苦しみにもがきましたが、頼れるのはお寺しかないとの思いでご住職にすがりました。娘は暫く病院に入院していましたが、その間にご住職と坊主さんが私の自宅を訪れ仏法の話色々してくれました。これにより大変勇気づけられた事が思い出されます。生死の問題に直面するとお医者さんは役に立たないことを実感した事です。娘は、仏壇のある生活を短期間であったが知っていました。嫁ぎ先の宗派は異なりま

すが、私たちと一緒にナンマンダブツの声を聴いています。念仏のひとは、命尽きたとき死んでしまうのではなく、お浄土に往生して仏になるとの教えに救われてきました。

## 宮崎先生との出会い

先月、ご住職にお願いして仏教壮年会の一泊研修会に参加させて頂きました。宮崎先生のお話は是非聞いておくべきだと主人からも進められたのですが、聴聞を重ねる私にとつてもやもやが払拭されたご法話で、「お浄土があつてよかつたね」というお話でした。これまで、お浄土は本当にあるのか、どこにあるのかなどと疑念があつたのですが、私の娘もお浄土へ往つたと確信することができました。お浄土は本当にあつたのです。自分の力で、どんなに立派に生きてきたと思つているひとでも自分の死を目前にすると必ず後生の一大事に直面するそうです。この問題は、娑婆で得た自分の力を全て捨て去り、阿弥陀様におまかせするしか解決の道はないと教えられました。病院でビハールを実践している先生の体験に基づくお話なのです。命尽きようとする人が阿弥陀様に救われていく様子を涙なくしては聴けないような感動をいただきました。この感動を忘れず、長照寺の三十周年に向けた活動を目指し、これからもお念仏の道を歩ませて戴きます。

# み仏とともに



## 長照寺門徒 一ツ田 尚子

昨年は長照寺門信徒会発足二十周年記念行事が行われ、また式典を前に副住職が布教使としての資格を取得されるという喜ばしい出来事が続きました。

これからは長照寺の屋台骨となり、任職とともにお導き下さることと喜んでいきます。

私事を顧みまずと私が長照寺にご縁をいただいたのは、今から二十年有余になります。今は亡き義父が長照寺の墓地を拝見し「素晴らしい！」と感動してお願いしたのが門徒としての第一歩でした。その義父もお浄土へと導かれて、昨年は十七回忌を迎える事ができました。義父をお浄土へと見送った当初は、主人と定例法座に参拝し、旧本堂で皆様と一緒に正信偈をお勤めし、ご住職の法話をお聴きしたりしていました。その時の可愛らしい副住職のお姿や若かりし坊守のお姿も目に浮かびます。

しばらくして、主人は定年退職後自分で仕

事を始め、私は目と耳の両方に障害のある盲ろう者の方々の支援を優先する様になって、主人も私も慌ただしい毎日を過ごすようになり定例法座への足も遠のきました。その間に郷里では、父が、弟が、母がと、お浄土へ導かれて往きました。

そして、気がつくと自分の方が支援を必要とする身体や年齢になっており、念願だった「法名を頂きたい」という思いがつのつてまいりました。任職に相談しますと「京都の本山で頂くように」というお言葉。主人はというと「法名とは死後頂くもの」という思いが強く「一人本山へ?・・・」と考えるなか、時は過ぎていきます。その時「産まれてくるのも一人、死んでいくのも一人」という住職のお言葉を思い出して決心しました。

当日京都の本山では春の彼岸会が勤まっております、一人受付を済ませて九州の方々五名、関

西の方々四名と、待つておりました。しばらくするとそれぞれに名前を呼ばれ、係りの方より御影堂に案内されました。

御影堂は扉が閉じられ灯りは内陣のみ灯されて薄明かりの中、親鸞聖人の御真影の前に座り帰敬式の説明を受けました。三帰依文を唱和し終えると、新門様よりおかみそりを受けて帰敬式は終わりました。

別室へ案内され、一人一人お祝いの言葉と法名を頂き緊張のひと時を終え安らかな気持ちで帰路につきました。

帰敬式を終えて法名は頂きましたが甲斐和里子さんの読まれた詩のように「み仏を呼ぶわが声は、み仏のわれを呼びさます声なりけり」という心境にはまだなお遠く「み仏を呼ぶわが声は、み仏に呼ばれる声と知るその不思議」であります。これからの残り少ない人生を門信徒の研修会に参加させていただきながら、み教えを学ばせていただき、み仏に導かれてお浄土へとお念仏申させて戴く毎日でございます。

合掌

# 活動報告

平成二十五年度下期

## 門信徒のつどい

平成二十五年十月十日

… 寶専寺 (伊東市)

◆ 静岡東組内各寺院の  
ご門徒の皆様と交流を  
してきました。



## 門信徒会親睦研修旅行

平成二十五年十月二十一日～二十三日

… 姫路・神戸方面

◆ 神戸別院参拝、修復中の姫路城や六甲山からの夜景を見ながらのデ  
ィナー等盛りだくさんの研修旅行でした。  
※写真は表紙に掲載

## 第二十八回門信徒会親睦ゴルフコンペ

平成二十五年十一月七日 … 愛鷹シックスハンドレッドクラブ

◆ あいにくの天気でしたため、  
若干参加者は減りましたが、  
楽しいコンペができました。

- 優勝 小井土 浩さん
- 準優勝 服部 正司さん
- 第3位 長沢 一幸さん



## 七五三参り (恵みのお参り)

◆ 「命のつながり・命の尊さ」を  
伝えていくお参りです。

平成二十五年十一月九日 (上)

久原誠仁 (せいと) 君

久原真子 (まこ) ちゃん

平成二十五年十一月二十三日 (下)

大橋凜太郎 (りんたろう) 君

大橋花香 (はなか) ちゃん



… 長照寺本堂

## 報恩講・門信徒会発足二十周年記念行事

平成二十五年十一月十七日

… 長照寺本堂・みしまプラザホテル (二八〇余名)

◆ ご講師 遠山博文師 特別ゲストに  
落語家 三遊亭 遊雀師匠、  
演歌歌手 竹川 美子様をお呼びし、  
長照寺報恩講と兼ね、門信徒会発足  
二十周年記念行事を盛大に行いました。  
※写真は8ページに掲載



## 境内清掃作業

平成二十五年十二月二日

… 長照寺境内 (二〇〇余名)

◆ 新しい年を迎えるにあたり、  
感謝・感謝。



## みしまお寺めぐり

平成二十五年十二月十四日 ……長照寺本堂

◆「みしまお寺めぐりの会」主催の三島市内のお寺めぐりの一カ寺として、三十余名の方々が当寺院へ参拝をされました。



## 除夜会

平成二十五年十二月三日

……長照寺本堂・梵鐘（二〇〇余名）

◆百八ツばかりの煩惱ではないことを知り、これからは少しずつ出していきたいと思います。



## 修正会・新年会

平成二十六年二月四日

……長照寺全館（四十名）

◆心新たに出発。今年こそはと毎年思っている自分がいました。



## ご正忌報恩講

平成二十六年二月十三日～十四日

……京都・西本願寺（本山）

◆深々と冷える京都ご本山（西本願寺）参拝。身が引き締まりました。



## 東京教区

### 仏教壮年会連盟研修会

平成二十六年二月二十二～二十三日

……鬼怒川

◆先輩方々を敬いながら、若い者とも共生きの強化団体です。



## 春季彼岸会法要

平成二十六年三月二十二日

……一五〇余名

◆ご講師

福岡 智哉 師



## つきじ二泊（わんぱく）子ども（東京教区少年連盟主催）

平成二十六年三月二十七～二十八日

……築地本願寺

◆仏様のおはなし・築地本願寺探索・カップラーメンミュージアム見学など盛りだくさんの内容を楽しんできました。

※写真は6ページにも掲載



# 今 後 の 活 動 予 定

平成26年

4月6日(日)	祝入園・入学慶讃法要 釈尊降誕・花まつり	本 堂
4月23日(水)	門信徒会親睦ゴルフコンペ	大熱海国際 ゴルフクラブ
4月27日(日)	門信徒会親睦ボウリング大会	ジョイランド みしま
5月6日(火)	門信徒会定期総会	本 堂
7月27日(日)	境内清掃作業・親睦懇親会	境 内
7月31日～ 8月2日	お寺の臨海学校 (南ブロック門徒子弟研修会)	鎌倉市
8月13日～15日	合同盆法要(全8回)	本 堂
9月23日(火・祝)	秋季彼岸会法要	本 堂
10月5日	寺報(第32号)発行	

※各行事は、予定ですので、その都度、寺から案内を送付します。  
 ※定例法座は第3土曜日、午後1時より本堂にて開催。  
 ※その他に親睦の集いを募集・計画中。

( 日頃の忙しさから解放されて  
 気持ちの軽くなる自分を発見  
 できるかもしれません。 )

## つきじー泊(わんぱく)子ども会

平成二十六年三月二十七日二十八日…築地本願寺

いも会  
 楽しかったつきじわんぱく子  
 ども会

小二 藤澤 月樹

わたしは、わんぱく子ども会に  
 一年生から行っていました。  
 その中で二年が、一番楽しかっ  
 たからです。なぜなら、カップラ

ーメンミュージアムで、せかいに  
 一つだけの、カップラーメンを作  
 りたからです。

二番目に楽しかったのは、つき  
 じんピックです。わたしたち一ぱ  
 んは、ビリだっただけれど、自分た  
 ちなりにきょうりょくして、とて  
 もがんばれたと思います。

らい年もまた行きたいです。



# ?? 浄土真宗クイズ ??



ご家族みんなでチャレンジしてみてください。

クイズ全問正解者の中から10名様に、お寺から豪華記念品（記念品はお楽しみ）をご用意しております。ご門徒の皆様、ふるってご応募ください！！

※応募方法は下記をご覧ください。

問1. 浄土真宗のお寺の本堂や、お仏壇の中央にご安置されておりますご本尊様は何という仏様でしょうか。

- ① 大日如来
- ② 釈迦如来
- ③ 阿弥陀如来

問2. 浄土真宗のみ教えの根本となるお経典は3つありますが、「仏説阿弥陀経」「仏説観無量寿経」の2つと、もう一つは何でしょうか。

- ① 般若心経
- ② 仏説無量寿経
- ③ 法華経

問3. 浄土真宗本願寺派では「南無阿弥陀仏」を何と読むでしょうか。

- ① なんむあみだぶつ
- ② なもあみだぶつ
- ③ なむあみだぶつ

問4. 浄土真宗では、阿弥陀様の願いのはたらきにより、この世の縁が尽きた時に生まれていく世界のことを何というでしょうか。

- ① 浄土
- ② 冥土
- ③ 天国

問5. 浄土真宗の開祖であります、親鸞聖人がお生まれになったのは何年でしょうか。

- ① 1207年
- ② 1181年
- ③ 1173年

問6. 問5をお祝いするご法要のことを何というでしょうか。

- ① 花まつり法要
- ② 降誕会法要
- ③ 永代経法要

問7. 親鸞聖人のご命日は何年でしょうか。

- ① 1235年
- ② 1263年
- ③ 1272年

問8. 問7のご遺徳を偲ぶ、浄土真宗で最も大切な法要のことを何というでしょうか。

- ① 立教開宗法要
- ② 報恩講法要
- ③ 彼岸会法要

問9. 親鸞聖人が師と仰がれた方はどなたでしょうか。

- ① 栄西禅師
- ② 鑑真和上
- ③ 法然聖人

問10. 親鸞聖人がお書きになられたものはどれでしょうか。

- ① 御文章
- ② 歎異抄
- ③ 教行信証

## 応募方法

ハガキに「①クイズの答え」「②郵便番号」「③住所」「④氏名」「⑤電話番号」をもれなく記入の上、下記の宛先までお送り下さい。

・宛先 〒411-0044 静岡県三島市徳倉1195-817 長照寺 宛

## 応募期間

平成26年5月11日まで ※当日消印有効

## 結果発表

当選者への発送をもって発表にかえさせていただきます。

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

# 報恩講・門信徒会発足二十周年記念行事



## 報恩講・門信徒会20周年記念行事を終えて

長照寺の門信徒会員数は年々増加をしています。

それは20年間の歩みのなかで、多くの人たちが浄土真宗のみ教えに触れたからではないでしょうか。

これからもお寺との関わりが葬式仏教と言われないよう、生きてゆく門信徒の為の長照寺であってほしい。

この20年の歩みが永きにわたり、長照寺が門法の道場として今後さらに発展していくことでしょう。 世話人 園田 茂光



## 編集後記

☆お寺からのお便りは、家族皆さん必ず読んで頂く習慣をつけましょう。

☆お寺は「よろず相談処」です。日頃悩んでいる事がありましたら、何でもご相談ください。

☆次回寺報は、平成26年10月5日(日)発行予定です。

●ご意見・ご要望は、寺務所まで  
〒411-0044三島市徳倉1195-817  
TEL・FAX 055-988-3900  
編集人 = 長島・菊沢・斎藤・園田